

瑞雲

直方鉄工青年会

第50号

一年間を振り返って

第24代会長 西尾英治



昨年(2007年)の2月に会長に承認をしていただき、4月の総会において、事業、予算の承認を戴き会長としての1年がスタートしたわけですが、2月から4月までの間、いろいろと考え、又悩みました。会長としての重席を1年間勤められるだろうか。事業のテーマは何を柱として行うか等々……。

しかし、案ずるよりは生がやすしと言います様に、各委員会の事業計画を提出して戴いた時に、これで1年間やって行けると自信を持つ事が出来、又安堵いたしました。

今年のテーマとして「考えよう これからの経営、持とう心のゆとり」又、サブテーマとして「見る、聞く、そして考え、実行しよ

う」を上げてスタートしたわけですが、各委員会が、このテーマをよく理解して戴き、事業計画に繁栄され、心より感謝しております。

4月の総会、新年例会では、御来賓、OBの皆様の多数の御列席を戴き厚く御礼申し上げます。

恒例のソフトボール大会も多数の企業参加を戴き、天候にもめぐまれ参加者全員が楽しく一日を過ごされたと自賛しております。

厚生委員会の目玉である研修旅行、家族同伴の海の中道公園ハイク、多くの参加を戴きありがとうございました。

経営委員会では、八起会会長の講演会、直方青年会議所との懇談会、バレーボール大会など、今までにない多数の経営セミナーを開催戴き、多くの勉強をさせて戴きました。

講演会におきましては、予想以上の多数の御参加を戴き、会場選定に苦慮したのが今では楽しく思い出されます。

本年度、充実した事業を行えました事は、会員各位は無論の事、中央会、直方市、商工会議所、青年会議所、他団体、直方鉄工協同組合、先輩各位の御支援、御指導のおかげと

スローガン 「考えよう これからの経営

持とう 心のゆとり」

心より感謝しております。

この1年間会員の皆様には、私の力不足から、迷惑のかけどうして、大変心苦しく思っておりますが、私にとっては良い経験と楽しい1年間を過ぎて戴いた事、心より御礼と

感謝を申し上げます。

最後に平成元年の映えある会長になられる倉田新会長に、会員の皆様の英知と行動力を結集して、協力をしようではありませんか。

瑞雲50号におもう

直方鉄工協同組合

理事長 小野原 計 顕



創刊されたのが、昭和42年6月であり、歳月が経つは早いもので、22年前のことです。当時、私も会員皆様と同様に会社では三人で何役も

務め、日出而作日入而息の毎日でありました。自社のため当然ですが、それでも鉄工青年会の例会には、必ず出席するように心掛け、鉄工業界及び地域社会に何か貢献出来ないものかと、真剣に会員同志で議論を行ない、即行動に移し、会員同志で研さんを深めたことが今振り返りみますと、直方鉄工青年会から受けた影響は、はかり知れない大きなものがあ

ります。

今激動の時代であります。私も意欲、体力にはまだまだ充分自信がありますが、若いときの様な全身からみなぎるエネルギーは薄れ経験ばかりが頭をよぎり、この齢になりますと冒険といいますが、発想の転換といいますが、新しい事にはどうしても保守的になりがちであります。

いつの時代でも若者が時代を創造していきます。会員同志でお互いに切磋琢磨し、今迄培われた直方鉄工青年会の良い特長はますます活かされるとともに、融合化、或いは分野の異なる異業種からも良いものはどんどん操り入れられて、自らの創意工夫により、直方鉄工青年会の活性化を図られ、現在急速に進む技街革新・情報化社会において、直方鉄工業界の先進的役割を果たされるとともに、地域経済社会に貢献され、歴史ある「瑞雲」が21世紀に向けて内容がますます充実し発展されることを祈念いたします。

県政からみた

これからの鉄工業界

福岡県議会議員 野 下 昭 宣



直方鉄工青年会の皆様が、地域の発展と地場企業の活性化のため、日夜努力されておられますことに心から感謝申しあげ敬意を表する次第です。

また鉄工青年会の催し物等にもご招待いた

だいていることに對し、この場をかりてお礼申し上げます。

このたび「県政から見た今後の直方鉄工業界」のテーマで原稿の依頼を受けましたが、その期待に応えるには程遠いと思いますが、この間私が見聞きしてきた経験の中で感じたことを率直に書かさせていただきますので、失礼な点や不勉強については悪しからずお許し下さい。

県外視察や、講演会、資料などを参考に私を感じることは、産業構造の変化と共にそれぞれの地域や行政、団体など技術開発研究が進められており、先進県に於いてはすでにそ

の成果をあげているところもあります。

特に通産省のデーターをみますと、東京を中心に東と西に分け、新技術産業の分布図をみますと、そのほとんどが東日本に集中して進出しています。

西日本については、60年代に入ってぼつぼつと点在している状況になっています。

北九州を中心に発展した大企業郡も産業構造の変化と共にその本体を東京に引きあげ、地場の中小企業を置き去りにしたのです。

その結果、北九州市や直方、大牟田両市は特定不況地域に指定されるなど、情勢は深刻であります。しかし一方では、その経済力による基盤づくりに着手するのが遅かったことが指摘されると思います。つまり福岡県はそのための中長期プランをもたなかったと言っても過言ではないと思います。また、円高不況や産業構造の変化に即応できる体制、企業の力量が不足していたというより、経営を維持するのに必死であったとも言えると思います。最近では内需拡大政策の影響で、かなり景気は回復し企業も従来の力もち直していると言われています。しかしこれが継続的に安定するとは言えず不安はつきまとうのであります。県の政策としても国際化社会に向けその立地条件を生かし技術立県福岡をめざしとりわけ、地元に住座った土着の地場企業を活性化させることこそ、真の福岡県の発展はあるとあらゆる努力をしているところであります。「福岡県21世紀のプラン」がそれであり、第一次五ヶ年計画が着実に前進しています。具体的には中小企業振興資金の融資、中小企業近代化資金など財政面での援助も大巾に増額し、産学官による技術研究・中小企業技術振興会議の設置、テクノポリス開発計画推進など、数多くの新規事業を起し、すでに今日段階ではリサーチコアの推進（久留米・飯塚・北九州）、特定地域加速的技術開発支援事業、情報化基盤整備促進等々成果をあげつつあります。さらに63年2月には、福岡県に於ける技術振興施策を発表し、人材育成の

強化、技術指導普及の強化など六本の柱で具体的な施策を推進しています。

また、平成元年2月には福岡県の主要施策として、「福岡県産業振興ビジョン」の基本方針が発表されました。問題はこれらの施策がどのように理解され、具体化されるのか、これからの課題でもあります。

私はこれらの施策を直方で生かすため次のように考えています。まず、その基本は筑豊三市にある産業別事業所数を、特に製造業にのみ絞ってみますと、直方314社、飯塚229社、田川199社であり、その中でも非鉄金属製造業、金属製造業、一般機械器具製造業の事業所を拾ってみますと、直方152社、飯塚34社、田川41社となっており、圧倒的に直方に集中していることがわかります。これらの素材型企業郡が生き生きと元気を取り戻さない限り、筑豊の活性化、とりわけ福岡県の活性化はないことをしっかり認識させることが大事である。第二には、リサーチパーク等が完成し、その波及効果が出るまでのつなぎをどのようにするのか当面の施策が必要であります。

これらのことを基本認識におき、支援事業を取りくまなければなりません。

そのために、①、県の施策を理解してもらうための交流の場をつくる。②、中核になる人を人選してもらう（企業の側）、③、身近にできることから何かを始める（例えばサロンをつくるなど）などのことからはじめたらいかがでしょうか。

問題は、県の施策をどのように自分の企業に生かすか、だと思います。

そのために、県と企業の皆様との信頼関係を築くことが今一番重要なことではないでしょうか。そのことによって、直方鉄工業界のもっているポテンシャルを引き出すことができると確信しています。

今は何を言ったかより、何をしたかの時代だと思います。私自身、工場見学等させていただき、勉強しますので今後の御指導ひきまわしの程よろしく申し上げます。

直方市政から見た 今後の直方鉄工業界

直方市役所商工課長

藤 永 誠 一



直方市経済においては、石炭産業と共に鉄工業は長く中心的役割を果たしてきた。特に付加価値の創造という面からは、今日でも重要な地位を占めている。

しかしながら現在、日本の工業が迎えている産業構造の変化は、日本における産業の中心的役割をモノから情報へと交替させようとしており、本市においても、将来鉄工業の地位は、他の産業に取って代わられるかもしれない。

時代は、産業のその時代における役割から農業の時代、工業の時代といった呼びかたがなされるが、今日では、繁栄の基盤となった工業の時代は変化をし、コンピューターが出現し情報機器が急速に普及するにつれて、情報というものの価値が増大する情報産業の時代が到来しつつある。

こうした情報化の波の中で、企業環境は大きく変化して来ている。

日本経済は益々国際化し、円高と相まって水平分業が盛んに行なわれるようになる一方個性化と共に消費者ニーズは多様化し、生産形態が変化してきている。さらに、高齢化や技術革新が急速に進んでいる。

このような環境の変化の中で、本市鉄工業界は、どういった対応が必要であろうか。

一般的に経営資源の見直しと事業の再構築がさげられる中で、経営資源の乏しい中小企業がどう生き残り得るのかを考えた時、一つの解決方法として、異業種交流というものが先進的企業において行なわれるようになった。今日まで新しいビジネスチャンスを探求して、

あるいは、経営ノウハウの相互利用を求めて異業種交流は全国的に積極的に行なわれ、国としてもその効果を認めて昭和63年、支援する体制を整える為「融合化法」を制定するに至った。しかしながら、異業種交流では、本来中小企業の持つ独立性を、ある面で捨てなければならぬことから、参加企業の意識のレベル合わせ等につまづき、数多くの失敗事例を積み重ねてきていることも事実である。

そうした点をふまえて本市鉄工業界を見、異業種交流は方法論としてあり得るのか、果たしてうまくいくのだろうかと考えた場合、業界内だけでの異業種交流は同業者的色彩が強いだけに意識レベルを合わせることもだけでも、大変難しいのではないかと考えられる。特に、デザイン力を持たず加工だけに特化している企業の多い中では、多面的展開が難しい。こうした点から考えて、鉄工業界の異業種交流には、いろんな業種の企業の参画をもって辛抱強い努力を重ねることが重要ではないかと考えられる。と同時に、ニーズを与えたり、それを融合化まで発展させるマネジメント力を持った良きカタライザーの存在も欠かすことの出来ない要件である。

鉄工業界が従来組織にこだわることなくそして、直方市域のみに限定することなく仲間を見い出すべきであるし、そこでさまざまな研究会が自主的に行なわれるならば、融合化への道は決して遠くはない。

本市としても、バランスのとれた活力ある地域の発展の為に、新しい業態を求めて、あるいは、新しい商品・サービスの開発を目指して行なわれる様々な取り組みを積極的に支援する必要があると考えている。直方の活力を示すには、そうした起業家が数多く、かつ、絶えず輩出される土壌（風土）を作ることであると考える。企業経営にはリスクはつきものであり、若干のオーバーエクステンションは必要なのであるから、先づは、若手経営者等が、企業家精神を発揮して、積極

的挑戦を試みることを期待する。

異業種交流に臨むにあたって大切なことは、経営者の姿勢と魅力ある企業づくりである。企業が今日存在するのは、何らかの意義があるからであり、自らの特徴は何なのかをよく分析して、長所を伸ばすことが必要である。異業種交流の根本精神がギブ&テイクであることを考えるとき、何を与えることが出来るのかは、重要である。先づ最初にすべきことは、自社の経営資源を再度チェックし、事

業機会の損失を出来るだけ少なくすること、そしてビジョンを立てて、その戦うべき領域へ資源の再配分を行うことから始めるべきかもしれない。

更に、つけ加えるなら、環境変化に対しても対応し得る強い企業、成長する企業は、人材開発能力を持ったところだといわれているところから、人づくりを長期的視野にたって進めるべきではないだろうか。マネジメント力の強化を期待したい。

(社)直方青年会議所理事長より

(社)直方青年会議所 理事長

一 尾 泰 嗣



日頃より直方青年会議所の運動に対し、多大なるご理解をいただきありがとうございます。メンバー一同心より感謝致しております。これからも

よろしくご協力、ご指導をお願い致します。さて、最近では内需拡大の影響を受け、戦後始まって以来の好景気だとのことです。しかし、我々の地域はどうでしょうか。駅前を含む商店街の売上は、2～3割のダウンだと聞いております。それとは対照的に周辺地域は大変早いスピードで都市化が進んでいます。それも数10億、数100億単位のプロジェクトです。特に飯塚を見ますと、九州工業大学情報工学部を中心にフェジャー研究所（50億）、嘉穂高校跡地の文化ホール（60億）、同時通訳が可能な国際ホテルのプレジデントホテル（4月オープン）、西武セゾングループと麻生グループとによる新飯塚駅前の開発等々、と数え上げればきりが無いほどの投資がなされています。都市化が進むと、当然のことながら文化・福祉施設も整備されてくるでしょ

うし、あらゆる地場産業に波及効果が出てくるのは当然のことです。そのことで雇用の拡大がなされ、ますます人口が増えてきます。

中間市も同様に、ダイエーを核とした町作りがなされ、総合病院、シルバータウン（150億）。北九州市は、プリンスホテル（150億）、スペースワールド（200億）等々。福岡、宗像も例外ではありません。

直方市を取りまく周辺地域は、確実に発展しております。しかし、この地域はどうでしょうか。このままでいけば、ゴーストタウンになることは明らかです。遅々として進まぬ駅前開発・電停の延長、日の出橋の渋滞、下水道の問題、200号バイパスにおきましては冷水トンネルは貫通し、直方だけがいまだに完成されていません。

このまま何もしないしていると、遠賀川から東部は北九州、小竹・宮田は飯塚、鞍手・若宮は北九州・福岡と、ますます直方ばなれしていきます。

何ひとつ明るい話題がありません。その為に、人が寄りつかない。人がこないから、ホテルも、映画館も何もできない。

地価が下がるから、投資できない。この悪循環を考えるだけでも、背筋が寒くなってきます。広大な土地を持たれている鉄工界も、地価があがらないので付加価値の高い事業への転換が難しいのではないのでしょうか。

この様な状況の中で、直方青年会議所は4

平成元年の九州・山口地区税務署別最高路線価

(1平方メートル当たり、単位千円、伸び率は前年比、%)

	税務署	地 名	評価額	伸び率
福岡県	福岡	福岡市中央区天神2丁目岩田屋百貨店東側渡辺通	7,140	36.8
	博多	福岡市博多区博多駅前2丁目センタービル前駅前通	4,940	36.1
	小倉	北九州市小倉北区魚町2丁目モダン屋玩具店前魚町銀天街	1,850	12.1
	西福岡	福岡市早良区西新4丁目オリンピック商事前西新商店街	1,250	35.9
	八幡	北九州市八幡西区黒崎2丁目サン・インモト前ふれあい通	1,000	13.6
	久留米	久留米市東町百万両会館前西鉄駅前通	800	15.9
	香椎	福岡市東区香椎駅前2丁目福岡銀行香椎支店前香椎駅前通	740	54.2
	飯塚	飯塚市本町寿屋化粧品店前本町商店街	290	3.6
	筑紫	筑紫野市大字二日市さかえ屋前西鉄二日市駅前通	280	12.0
	大牟田	大牟田市新栄町大牟田井筒屋西側新栄町通	255	4.1
	若松	北九州市若松区本町2丁目甘楽堂前明治町銀天街	230	9.5
	直方	直方市古町すずらん玩具店前古町銀天街	215	2.4
	門司	北九州市門司区柳町2丁目ニュー門司パチンコ店前駅前通	215	2.4
	行橋	行橋市宮市町福島薬局前魚町商天街	180	5.9
	甘木	甘木市山領町喫茶ロビン前バス通り	155	6.9
	田川	田川市伊田町江頭化粧品店前伊田橋通	130	4.0
八女	八女市本町原食堂前土橋通	125	8.7	
大川	大川市大字酒見さがや菓子店前国道208号線通	120	4.3	

(この数年間、福岡県下で地価が低く値下がりしている場所も出来つつあります。)

年程前から推進していた、新幹線駅の実現に努力したいと考えています。この地域は、北九州市と福岡市の2大政令都市の中間に位置しております。この好条件をおおいに活用しなければならないはずで、周辺地域が人を呼べる施設をどんどん作っております。交通の要所として、この地域の生き残りを考えなければ、将来を語れないでしょう。

また、竹下総理が唱えている「ふるさと創世論」にもあるように、各市町村が地域アイデンティティを生かした地域作りを考えろ。国がそのためにいくらでも出資しようと言うのです。この機会を逃す手はないでしょう。我々の愛すべき郷土の特色は何でしょうか。鉄工の町、石炭の町、城下町、交通の要所と

して栄えた町。探せばいくらでもあるはずで、現在、それらを踏まえた交通博物館、石炭博物館等を研究しています。

先ほども触れましたように、我々の地域は大変な危機に直面しております。この危機を乗り切るには、この地域に生活基盤を持つ者の団結以外には考えられません。個々がいくら努力しても、巨大プロジェクトにはかきません。若い我々の情熱が、この地域の浮揚の鍵を握っているのです。「何をしてくれるのか」と考える前に、「何をなすべきか」と行動しようではありませんか。

この1年を振り返って

・ 総務委員長

・ 経営委員長

・ 厚生委員長



総務委員長

坂田 幸一

『立春』『節分』『厄払い』、これらの言葉は私にとりまして、思い出深いものになりました。

40才代に入り健康管理に多少なりとも目を向ける機会を作っていただき、又一緒に厄をからって下さった方々に改めて感謝しています。仕事に於ても家庭に於ても、これから益々充実した日々を送ることが出来るために、健康維持、増進に気を付けたいと思っております。振り返りますと総務委員長の御役を仰せつかったのは、この厄払いの日でした。

当時少しづつ活気が出てきた事業の景気をさらに回復、飛躍させようという意欲に燃えていた矢先のこと、多少のためらいもありましたが……。

しかし、このような時期だったからこそ、限られた時間内でのこの大役は、私にとりまして、誠に良い経験であり、又色々と勉強させていただき意義深い機会に恵まれたことと有難く思っております。

さて、四月に掲げた目標の第一であります出席率の向上については、皆様御承知の通りです。次期委員長の御活躍と、会員各位の認識に期待します。

第二に三名の新しい会員の入会は、青年会に新しい息吹きを感じさせてくれました。

次に各例会の準備、殊に四月の総会に際しては、委員会のメンバー諸氏は言うに及ばず

先輩方の御協力、アドバイスを御得て、無事に終えることが出来たことは、思い出深く、心より感謝しております。どうもありがとうございました。

日本の時代の大きな流れの中で、平成元年という記念すべきこの1年、鉄工青年会の発展の為、又企業の発展の為に、色々な研修会や諸活動、或は皆さんとの情報交換等を通して頑張っていきたいと思っております。



経営委員長

栗原 康之

入会して3年目に西尾会長より、委員長を引き受けて、はや1年になろうとしています。が、ふり返ってみれば、よくこの大役を引き受けたものと我ながら恐縮する次第であります。伝統ある青年会に恥じぬように何か今の青年会に於て、良い勉強の場をと願って、荻野副委員長始め委員のメンバーの御協力により無事行事が運営出来ました事を深く感謝しています。この一年の鉄工界は、過去円高不況より、やや好転し活気を感じられる年でした。今の状況は、景気のけん引役が住宅建設又、公共事業の拡大中心のものから、個人消費及び民間設備投資額の増加へと変化し、この流れが堅調であること。又大企業が前向きな経営戦略に転じている為、設備投資や雇用の拡大となり持続的成長が期待できる等が思われますが、まだまだ我々中小企業をとりまく経済環境は、円高の定着又アジアニーズの追い上げに伴う大手企業の対応に関連して、

高い賃金、低い単価により受注といった厳しい経営を余儀なくされ、依然として楽観を許されない実情にあります。目先消費税の問題又2年先週労働時間46時間、さらに3年後40時間へと、益々中小企業にとって、厳しい時代が訪ずれようとしています。このように、まだまだ我々青年会で勉強していかねばならない事が数多くあります。今年（平成元年）も前半は今の状況の忙しさが続くだろうと思われませんが、後半は未知数で楽観を許されるものではありませんが、まだまだ私達は、若さがあります。この若さを多に活用し、明

日へと挑戦して行かねばと思う次第です。

事業では失敗は許されませんが、青年会で多くの恥をかき、今後の事業の展開への足がかりへと思い過ぎて来ました。日頃余り出席されていない会員の皆様も、昭和から平成へと時代が変わろうとしている今日、今まで以上青年会に参加され、自分を磨こうではありませんか。私も今年最後の一年になりますので、昨年同様どうぞよろしくお願いします。最後に一年間、OB先輩、会員の皆様本当に御協力有難うございました。



厚生委員長

牛島 和 弘

10月21日朝5時45分、直方鉄工協同組合集合!! という、初めからハードなスケジュールでの研修旅行でした。KE-7316便8時30分福岡空港を出発し、9時10分釜山到着。到着後、直ちに専用バスにて、慶州へ向い2～3時間観光後、夕方釜山市内のホテルへチェッ

クインし、22日の早朝からの工場見学にそなえ、9時00分消灯。翌朝8時、ホテルを出発し、宇一産業株、株西一の2社を工場見学しました。11時に再びホテルにもどり、約1時間30分程、現地企業の方々（約8企業）と、懇談会を行い、韓国の実情や、日本の情勢等々、活発な意見を交換し合い、親睦を深めました。又、昼食後、熱心な韓国企業数社が、個別に青年会企業と会談し、おおいに商談へと発展した様子でした。

今回の研修旅行の目的は、韓国中小企業の現状と課題ということで、急成長してきた、



韓国内をつぶさに、自分自身の目で確認し、再認識する事でした。85年以降の、ウオン安と、原油安で、好調な輸出力を回復した国は従来型の、重化学工業に加え、半導体、ハイテク産業関連の育成や、乗用車製造など、産業の高度化、近代化がなされ、わが国でもNCESの脅威が、日まじに認識される様になってきました。しかし、海外市場で一定以上の品質を維持するには、特に、日本からの部品輸入にたよるのが実情です。今後、韓国経済に求められるのは、輸出の量的拡大でなく質的拡大となるであろう。そのためには、財閥を中心とした大企業が中小企業に優位性を発揮できる産業へと発展させるのが、今後の課題であると思います。直方鉄工青年会のメンバーが今回の研修旅行で得た知識を5年後10年後に役立てることを切に期待致します。

今回の研修で釜山市商工会議所部長、ジョン氏には多大なる協力を頂いた事に感謝致します。以上で終わりますが、この誌上を借りまして一言述べさせていただきます。

平成元年を迎え直方鉄工青年会にもマンネリ化を打破していく為にも話し合いの場を設けて下さい。!!

〔問題点〕

- (1) 現状の会員数40名ならず、5年後はなんと半数ちょっと!!
- (2) 1年間だけの会長選出に疑問
(会長を終了すると自動的に幹事で仕事がない)
- (3) 同企業の連帯感の薄さ(一部のかたより)
今年は是非発展を期待して実現させてほしい。
最後に厚生の実業も無事に終わりそうです。これも私の素晴らしいパートナー吉田祐司君に心から御礼申します。祐ちゃん、ありがとう!!

八起会講演会に思う

経営委員長 栗原康之

経営委員会の本年度の事業計画の中で、一番注目された講演会であったかと思われま。単純に年間行事の中に計画したものの、いざ本番間際になると、場所にしても、人数にしても、いろいろな心配が生じた。商工会議所の小ホールにしていたら、こんなに苦労しなくてよかったのに、今更大ホールを変更されないし、青年会としては、あまり大きさにすると言われてるし、果して何人の人が来てくれるだろうか。又、西尾会長の顔を潰す事になりはしないだろうか……等。

いよいよ当日が来た。時間間際まで委員長として、その場に落ちつかず、4~5回トイレに行き、トイレから出るたびにホールを覗き、ああ、あの人も、この人も来てくれた。ありがとう、心の中で礼を言った。然し時間は、刻々と定刻に近づいて来る。ホールの中には、まだ20人位。ああ……またトイレへ



……遂に時間が来た。司会をやらねば。もうなるようになれ、もっと多く声をかけてればよかった。この時程私は、この場を逃げ出したくなる思いであった。その時、『フッ』と頭の中に前回の選挙を思い出した。何でも計算どおりにいくものではない。もうやるしかない、腹を決めて深呼吸すると、肩がスーッとした。このような状況で八起会野口会長

の講演会を行ったのですが、終ってみれば、130～140人近くの人が集まって下さっていた。終了後、会員一人一人から『委員長大成長でしたね』とお世辞でも慰さめてくれた暖かい会員一人一人に、有難うと、頭を下げた次第でした。この紙面をおかりしまして、改めて当日の関係者、各団体様、御協力厚く厚く御礼申し上げます。

最後に講演会での話の中より、もう一度思い起して今後の事業の展開に役立てて頂ければと思います。

◎ 倒産の前ふれ15カ条

1. 売上げの3カ月分以上の借金ができたとき。
2. 有力社員が確かな理由なく退社したとき。
3. 経営者に日頃みられぬ不自然な行動が現われたとき。
4. まじめな経営者が、ウソをついたとき。
5. 「あそこは危ない」という世間のウワサが出たとき。
6. 経営者が派手に遊びはじめたとき。
7. 新製品が売れなくなったとき。
8. 努力しても赤字が続くとき。
9. 夫婦仲が悪くなったとき。
10. 家族や従業員の笑顔が見られなくなったとき。
11. サラ金に手を出したとき。
12. 無理な資金計画を銀行に提出したとき。
13. 経営者が自分一人で取引をはじめたとき。
14. 経営者が過言、高慢に陥ったとき。
15. 八起会の記事が気になり出したとき。

卒 業	「卒業にあたって」	弘	信	弘
	「主人の卒業に思う」	弘		三保子

昭和50年4月入会以来、十数年鉄工青年会に、素晴らしい足跡を残され、「会則の弘」「シャシー弘」等、数々のニックネームを持たれ、鉄工青年会の生き字引といわれ、第18代会長を務められた、弘信之君が、平成元年という時代に新たな出発をされることとなりました。本当に永い間、御苦労様でした。今後の御活躍をご祈念いたします。

「出会い そして旅立ち」

弘 信 弘



「卒業、この2文字を見るとある種の物悲しさと、安堵感が交錯する。

思い起せば14年前、第11代石橋会長就任の総会で、当時定年制変更により大量14名もの先輩達が卒業され、入れ替りにこれまた大量11名の新人達が入会した時が小生のデビューであった。

その同期生11人も諸事情による中途退会者

6名、卒業が小生で2人目で、残り3名となり、その3名の同期の桜に「頑張れ、の声援を送りたい。

直方鉄工青年会での最大の出会いは、何と言っても直方と言う小さな町で同じ鉄工業界に勤む先輩、後輩いわゆる同輩達である。この小さな町工場で生涯を送るのが、の不安感を抱いている矢先のこと故同業の友を得るチャンス到来の喜びは表しようもなかった。この14年間の経験、そして仲間、これ等は小生の生涯の大きな誇りであり、財産として大切にしていきたい。

2番目の出会いは、第18代会長を命ぜられた1年間である。この年度は直方鉄工界大運動会の復活、自衛隊体験入隊、統一地方選挙

等様々な事業遂行をしたが、同時に筑豊地区中小企業団体青年部会長、県中央会青年部副会長をも兼任させられた。そのお陰で県内各地区は元より九州全域の異業種の青年会員連中と友達（友達と言わせて頂く!!）付き合いが出来た。これも前述と同様、貴重な経験、そして財産となった。

3番目の出会いは、内藤剛先輩である。入会2年目に総務副委員長の指命を受け、内藤総務委員長から「はい、弘君これはアンタに任せチョクき、ちゃんとしちょきナイ！」とコキ使われた。その影響か、はたまた反動か、総務畑一筋の鉄工青年会活動を送るハメになったのであるが、内藤剛先輩なくして今日の自分はない、と言っても過言ではなく、終生頭が上がない存在である。〔これで又、何か御馳走してもらえるかな——？〕

その他、この14年間には各種青年層団体等様々な出会いがあった。これもまた貴重な財産である。鉄工青年会卒業後も必ずやこの経験、友を得た事が役立つ時が来ると信じつつ直方鉄工青年会に感謝の意を表したい。

『会則の弘』なるニックネームの由来を知らない会員が増えて来たが、昭和53年度山本会長の時に総務委員長として会財の改正を行い、昭和54年度内藤博会長の時代以降、これを浸透させる際に、この異名を頂いた訳だがここ2～3年はこれを真面目に受け止めてくれる会員が増えたように感じられ、誠に嬉しい限りである。もっとも、小生が担当した直方鉄工青年会会則は卒業後も当分の間は会のお役に立つはずであるから——。本来会則と言うのは木の根であり幹である。そしてある程度の規制はするが、逆に逃げ道も随所に設けてある事をお忘れなく。早い時期に第2、第3の『会則の？君』の出現を待ち望みたいものである。

最後に本年度は卒業者がただ一人という淋しさを嘯みしめ、元年4月に平成の時代へと新たな出会いを求めて旅立ちをさせて頂きま

す。永い間このアゴを支え、育んでくれた直方鉄工青年会を少〜し愛し、永〜〜〜く愛し続け、諸先輩、会員諸兄の御活躍を祈念して惜別並びに御礼の言葉とします。

「主人の卒業におもう」

弘 三保子

伝統ある直方鉄工青年会に入会させて頂いて14年しか、いえ14年も経っていたのですね。私達の結婚生活も鉄工青年会と共に歩いていたのでは、と、ふと考えてしまいます。子供達が三輪車に乗って出掛けますので、行き先をたずねますと、「テッコウセイネンカーイ」と、いつも答える始末で、これには大笑いでした。

鶏肉料理が苦手な主人が鉄工青年会で留守をする日は、決って鶏肉料理のフルコース（皮肉にも子供達は大好物なのです）で、第1、第3水曜日が来ると子供達は大喜びでした。

卒業を迎え本当に残念がるのは、青年でなくなる主人よりも、むしろ子供達なのかもしれません。どうか、どなたかお暇な折は、主人を誘い出してくださいませ！

夫婦同伴の会合等が沢山あったのに、子供が小さかったり、私が急な発熱等で思うように参加できず、本当に申し訳なく残念に思います。

最後になってしまいましたが、14年もの間無口の主人を遊ばせて頂き、ありがとうございました。

これからも直方鉄工青年会の益々の御発展をお祈り致します。

そして、これからも今まで通りのお付き合いをお願いします。

厄年を迎えて

大 田 譲 治
松 井 明
竹 内 満



大 田 譲 治

父が青年会結成に奔走していた頃の事を覚えている。あの頃の父の歳に近づいたのかと思うと、

ぞっとしないでもない。

私は結婚するまで山ばかり登っていた。年間120日も山に入っていると自然と物の見方、考え方が、確立されてくるものである。

これは仕事の上においても、生き方においても（善し悪しは別にして）私の基本となっている。自由に山登りをさせてくれた両親に感謝している。

私が中学生の頃、父が「瑞雲」に書いていたもので「息子は山に登る。たばこを買いに行ってくれ。（イヤ）彼は福智山にはホイホイ登りに行く。」というような文があった。あの頃の父は私が羨ましかったのかもしれない。そんな父が72歳で会社を作った。「有限会社団鉦試験」いわゆるワンマン会社である。毎日好きな酒をのみ、中夜を問わず好きな時に仕事をしている。まさに毎日ホイホイである。今度は私が羨む番である。

さて昨今の私はどうか。町工場の宿命なのだろう。品質、納期、単価に追われる毎日である。機械がこれだけ進み、社会環境が大きく変わったというのに……。

父が会社を辞める時に言った。「これからは好きな事だけをやる。おれと同じ人生を歩むなよ」と。だが、結局父と同じ想いで仕事をしているのである。

人類初の8000メートル峰登頂者のモーリス

・エルゾークは言っている。「私にはアンナプルナがあった。人にはそれぞれのアンナプルナがある」私も私の中のアンナプルナをこれからも持ち続けたいものである。



松 井 明

2月19日に、諸兄立会いの下、多賀神社に於て「厄払い」をして頂きまして、真に有難うございました。

ました。

平成という新しい時代の幕開けと共に、私も人生の折り返し点を迎えました。

こけつまろびつし、ここまで辿り着いたという所です。四十路は、『不惑』とも言いますが、まだまだこの先も、惑う事が、多々あると思いますが、皆様のご指導を頂き、この先もつつがなく過ごせたらと願っています。



竹 内 満

私は今年厄年を迎えます。男にとってこの年齢は精神的にも肉体的にも丁度節目に当るのだそう

で、この事実は厳粛に受けとめたいと思っています。

そう言えば前に比べると二日酔いしやすくなったし、昔ならず喧嘩になるような事でも、『ま、いいか』と自分をなだめる事が上手になって来ました。

人生の半分を生きて来ましたが、これまで以上に仕事を大切に、家族を大切に、徹力ながらも社会に役立ちたいと思っています。

よろしくお願ひします

新 入 会 員 紹 介



入 会 の 挨 拶

東亜工業(株)

大 田 讓 治

この度、村井武氏の紹介で入会させて戴きました東亜工業の大田です。東亜から三人目（大田正男、島津）の入会ですが、村井氏から声を掛けてもらわなければ決心できなかったと思っています。といたしますのも、仕事以外の事に目を向ける余裕がなく、又、自分の主義ではないと思っていたからです。そんなことを知ってか知らずか、村井氏は再三声をかけて下さいました。村井氏のような人に弱いのが私の欠点であります。

青年会の色んな会合に顔を出すようになっ

て自分の力みが少しづつ取れるような気がし会社の中や友人だけの中に居ては経験できないことに楽しさを感じるようになってきています。後日、弘先輩より「青年会をおもしろいと思うも思わないも自分自身ですよ」と言われ、まさにその通りだと思っております。

色んな山の組織に属して感じていたものと同じではないかと、少しは不安が少なくなりました。この機会を大事にしてより多くの仲間を得たいものだと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

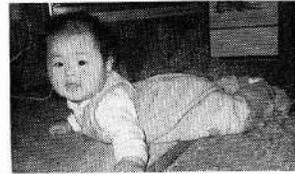
企業名	東 亜 工 業 株	所在地	〒 822 日吉町 613	TEL	(2) 0 1 6 0
創 立	昭和17年7月	代表者	大 田 讓 治	FAX	(4) 2 3 8 4
資本金	210万円	従業員	10名		
主要製品	加工内容	主要機械設備一覧			
団鋳成型機部品加工 セメント工業機械 部品加工	機械仕上加工	設 備 名	型 式 能 力	台 数	
		旋 盤	センター間3000,2500	3	
		旋 盤	チャック径 840	1	
		横中ぐりフライス盤	主 軸 径 80	1	
		ラジアルボール盤	最大旋回半径1500	2	
		成 形 盤	# 300	1	
		フ ラ イ ス 盤	縦 型 3 井	1	
		セ ー パ ー	加 工 幅 750	2	
		鋸 盤	C-322P	1	
		ク レ ー ン 装 置	電動 1.5 馬 外	8	
		コ ン プ レ ッ サ ー	10 HP 外	4	
主な加入組合	直方鉄工協同組合				

赤ちゃん誕生 おめでとう

西田 義治君 次男 拓朗ちゃん



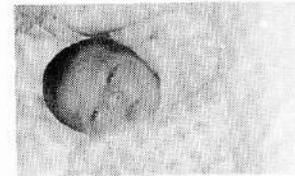
昭和63年7月13日生



松尾 武俊君 長女 真由美ちゃん



平成元年2月16日生



編集後記

昭和64年1月7日午前6時33分、吹上御所において『昭和天皇』が崩御され、昭和という一時代が終わりました。大行陛下におかれましては、昨年9月19日夜吐血されてより4カ月に近い御闘病生活をされ、さぞやお苦しかったこととお察し申し上げます。

直方鉄工青年会一同、大行陛下のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

また、大葬の礼におきましては、全世界より、163カ国にのぼる国々より弔問の使節が来日し、聞く所によれば、史上最大の葬儀の出席者であったとのこと、改めて「日本という国」「天皇陛下」「皇室」について見せて戴いたという気がいたしました。

『激動の時代』と呼ばれた昭和が終り、
史記の言葉 「内平かに成る」
書経の言葉 「地平かに天成る」

より、新しい時代『平成』が始まったわけですが、我が鉄工青年会を省みますと、昭和39年、時まさにエネルギー革命の真ただ中

石炭より石油へと経済的に大きな変化の時期で、「若い工場経営者同士が集まり、この転換期に何とか対処しよう」と、33名の先輩方が設立されたとお聞きしております。今日に至って、その設立当時の会員の二世が会員として現在活躍されており、鉄工青年会の歴史の長さを改めて感じます。

時まさに、『昭和』より『平成』と変わり新たな時代の到来とともに、我々青年への社会の期待が当然大きくなってゆくと思われま。我々、青年層が「燃えるような気」を持ちそれぞれの会社発展と、直方鉄工青年会の発展のため、大いに汗を流さなければならぬと思います。

そして直方鉄工青年会の新たな歴史を創ってゆかねばならないと思います。

最後に、原稿の依頼に対しお忙しいなか、こころよく応じていただきました方々に心より感謝申し上げます。